

令和6年度

吉野川市立川島中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- バランスの取れた「確かな学力」の育成
- ・基礎基本の徹底と「できた」「わかった」が飛び交う授業づくり
- ・思考の過程を大切にしたい学びの場の設定
- ・自主的に目標を掲げた家庭学習の定着

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
吉野 健太郎	元木紀美子(校長)筒井紀臣(教頭)入交理子(人権教育主事・特別支援コーディネーター)吉野健太郎(1年主任)糸谷祐子(2年主任)山野井貴子(教務主任)高橋周(生徒指導主事)

校長

元木 紀美子

【各校の取組状況の把握について】

- ①管理職・教職員による授業参観など学びの場の設置
- ②授業後における生徒の振り返り
- ③「めあて」「振り返り」等の明確化

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についたり、与えられた課題にも真面目に取り組めたりできる生徒が多い。 ○小テストに意欲的に取り組む生徒が多い。 ○真面目に授業に参加する。 ●身につけた知識を関連づけて活用したりすることに課題がある。 ●知識・技能を得るよりも、課題をこなすことを優先している。	・学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連づけて他の学習の場面で活用することができる。 ・身につけた技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・家庭で自主的に継続的に学習に取り組むことができる。 ・基礎的な知識が定着している。	・教員が相互に授業参観を行う。 ・学んだ知識を活用する場面を設定し生徒が興味をもって学習に取り組めるよう工夫した授業を行う。 ・自主勉強ノートの効果的な使い方を指導したり、各教科のプリントを用いたりするなど、基礎学力の向上につながるような課題の出し方を工夫する。 ・「めあて」「振り返り」等を明確化し、授業への取り組み方を子供たちが理解できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ○基本的な発言の仕方や、積極的に発言しようとする態度が身についている。 ●複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。 ●「より伝わる表現」を工夫する必要がある。	・各授業における課題等に対して話し合い活動等を通して解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において適切な言語活動により表現することができる。 ・自分の考えを自分の言葉で具体的にわかりやすく伝えることができる。	・ペアやグループでの学習を効果的に活用し、お互いの意見を伝え合う場面を設定する。 ・ICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・別の言葉に言いかえる、関連づける、そう考えた根拠と理由を引き出す発問を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に対して集中して一生懸命取り組むことができ、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ○授業前の準備や課題の提出ができています。 ●分からないことを質問するなど学力向上に対する積極性が乏しい。 ●自分の考えを客観的に捉えたり不得意な学習内容に対して自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自らの課題を解決できるよう計画を立て実践することができる。 ・苦手なことにも積極的に挑戦し続けることができる	・生徒同士が質問し合う機会を設け、教え合いができる場をつくる。 ・何を、なぜ、どのように学ぶかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・スモールステップでできていることを褒める。 ・振り返りの視点を生徒に示し記述させる。 ・自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。 ・テスト前などに、自分で計画を立てて実行できるようにするための手立てを考える。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

